

平成27年度第2回能代市総合教育会議 議事録

- 1 日 時 平成27年8月31日（月）午前10時～11時30分
- 2 場 所 能代市中央公民館 第2研修室
- 3 出席者 能代市長 齊藤 滋 宣
能代市教育委員会
委員長 木村 高 寛
委員 西村 省 一
委員 浜野 恵美子
委員 中嶋 佐千子
教育長 須藤 幸 紀
- 4 案 件 (1) 能代市教育等の振興に関する施策の大綱（案）について

【開会】（教育総務課参事）

ただいまから平成27年度第2回能代市総合教育会議を開催いたします。開会にあたりまして、齊藤滋宣能代市長がごあいさつを申し上げます。

【市長あいさつ】（市長）

おはようございます。本日は、大変お忙しいところ、第2回能代市総合教育会議にご出席いただきまして、心から厚く御礼申し上げます。

7月6日に第1回総合教育会議を開催させていただきました。その際には、大綱に盛り込むべきご意見について、木村委員長はじめ教育委員の皆様からお話をいただきました。皆様方それぞれの教育にかける思い、それから能代市の次代を担う子どもたちに対する期待というものをお聞かせいただきました。大変有意義な会合だったと思います。

今日は、皆様方からいただいたご意見を取りまとめし、大綱案に反映させていただきましたので、それについて協議していただき、忌たんのないご意見を頂戴しながら、今後は市議会の文教民生委員会、パブリックコメント等を通して素案をつくり、最終的には大綱として決定したいと考えております。限られた時間ではありますが、皆様方のご意見をしっかりと拝聴し、反映させていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

ちょっと余談ではありますが、先週豊島区のほうへ行ってきました。豊島区の高野区長さんと一緒に幼稚園の園長、小中学校の校長先生たちを前にお話をさせていただく機会がありました。その中で、豊島区の学力テストの結果をスライドで見せていただいたのですが、大変すばらしい成績で、全国上位の成績に入っている科目が増えていました。

豊島区の三田教育長からは「これもひとえに能代市との教育連携の成果です」というお褒めの言葉をいただきました。教育の成果は一朝一夕に表れるものではなく、今まで豊島区が取り組んできた「教育都市としま」の成果であり、そのとき集まっていた園長先生、小中学校の校長先生はじめ教職員の皆様方が長年努力して培ってきた成果だと思っておりますので、お世辞だとは

と思いますが、今日はせつかくの機会ですから、豊島区から「教育連携により能代市から大変影響を受け、能代市の教育が刺激になっていい成果が表れている」というお話があったことを披露させていただきます。

今日は、限られた時間ではありますが、充実した時間となりますことをお願いいたしまして、会議冒頭のあいさつとさせていただきます。

【案 件】

(1) 能代市教育等の振興に関する施策の大綱（案）について

(教育総務課参事)

それでは、案件に入ります。

これ以降の会議の運営については、運営要綱第3条の規定に基づき、市長が議長として進行することになりますので、よろしくをお願いします。

(市長)

それでは早速、案件に入らせていただきます。

それでは、案件(1) 能代市教育等の振興に関する施策の大綱（案）についてですが、協議に入る前に、前回第1回会議の議事録について、何かお気づきの点や疑問な点などございましたら、皆様方からご意見を頂戴したいと思います。いかがでしょうか。

(各教育委員)

ありません。

(市長)

ご意見等がないようですので、事務局から大綱案について説明をお願いします。

(教育部次長)

それでは、お渡ししております第2回能代市総合教育会議資料をお願いいたします。

前回会議の議事録については、説明を省略させていただきます。

15ページをお願いいたします。第1回能代市総合教育会議の出席者の皆様の発言を項目ごとに事務局で振り分けさせていただきました。

初めに、「心」についての発言であります。西村委員から「心の成長なくして、学力の向上はない」こと。中嶋委員から「基本的なあいさつをすることが大事」であること。木村委員長から「心をつくることがまちづくりの原点」であること。教育長から「心豊かな児童生徒の育成が目標」であること、などのご意見がありました。

また、「食育」では、「食事から生きていく土台が生まれること」。「食育を支えているのは、地域のコミュニケーション」であること。

「ふるさと教育」では、「ふるさと能代が心のよりどころになる」こと。また、浜野委員から「持続可能な社会をつくることにつながる」こと。「壁にぶつかって立ち止まる。そんなとき、背中を押してくれるのが、ふるさとである」こと。

また、「読書活動」では、「読み聞かせが、家庭、親と子の絆を深めていく」こと。

「学力」では、「心」の項目と重なりますが、「心の成長なくして、学力の向上はない」こと。

「子どもの能力を伸ばす」では、「みんな違ってみんないい」。「得意なものを見つけて伸ばし、生きる力を身につけてもらいたい」こと。

「自立」では、「子どもたちが自分が主人公である、と思えるような方針を望む」こと。

「学校」では、「すべての子どもが安全・安心して平等に学ぶことができる場である」ことや、いじめ、不登校、防災、危機管理などについてご意見をいただきました。

「教員について」は、先生方の指導環境の維持、IT機器の効果的な活用、研修・研究の重要性について。

「学校、家庭、地域等が一体となった教育」では、「社会全体で子どもを育てる時代となった」こと。「子どもたちを支えていくことが地域の活力となる」こと、などのご意見をいただいております。

「大綱について」は、基本理念等について総論的なご意見をいただいております。

20ページをお願いいたします。大綱案の基本的な考え方でありませぬ。

始めに、上位計画との整合等でありませぬが、国の第2期教育振興基本計画を参酌し、秋田県教育、学術文化の振興に関する施策の大綱等、及び能代市総合計画後期基本計画との整合を図っております。

また、大綱は、能代市の平成27年度学校教育の基本方針及び第2次能代市社会教育振興中期計画等を基本としております。進行管理は、先日の教育委員会定例会でお諮りいたしました事務点検・評価報告で行うこととしております。

21ページをお願いいたします。皆様からいただいた意見の反映等でありませぬが、各項目の大綱等への対応案でありませぬ。

まず、「心」につきましては、方針・計画に具体的な記載はされておられませぬので、基本理念に盛り込みませぬ。

「食育」は、食育推進計画で「親子の絆」等を基本目標としており、施策の方向性に盛り込みませぬ。また、教育部所管の個別計画に記載がございませぬので、次期見直しの際に食育に関する項目を追加させぬ。

「ふるさと教育」「読書活動」「学力」につきましては、学校教育の方針で基本方針としており、大綱1の個別計画とし、施策は継続とさせぬ。

「子どもの能力を伸ばす」につきましては、具体的な記載はございませぬので、大綱の個別計画として次期見直しの際に項目を追加させぬ。

「自立」につきましては、学校教育の方針で基本方針としており、施策を継続とさせぬ。

「学校」につきましては、いじめや不登校などの生徒指導面は、学校教育の方針で重点項目としておりますが、設備面の安全・安心については具体的な記載がございませぬので、大綱の施策の方向性に盛り込みませぬ。また、個別計画見直しの際に、項目を追加とさせぬ。

「教員」については、学校教育の方針で基本方針としており、大綱の個別計画とし、施策は継続とさせぬ。

「学校、家庭、地域等が一体となった教育」、「文化」、「スポーツ」につきましては、第2次社会教育振興中期計画で目標としており、大綱の基本目標に盛り込み、個別計画を継続とさせぬ。

22ページをお願いいたします。

「基本理念と基本目標」についてでありませぬが、基本理念につきましては、皆様の発言をまとめて、大綱の骨子ともいふべき、柱となる考え方を示してあります。能代市が掲げる将来像に向けて、学び、学び合いから、その実現のための取り組みを進めていくこと。そして、特に大切にしたいこととして、その一文を掲げてあります。基本目標につきましては、「子どもたちの中に豊かな人間性を育てる」ため、地域の大人はどうあるべきなのか、社会は何をすべきか、という視点で、学校教育方針、社会教育振興中期計画等との整合を図りながら、各分野における目標としてあります。

23ページをお願いいたします。大綱案でありませぬが、読み上げさせていただきます。

《大綱案を読み上げ》

以上でございます。よろしくお願ひいたします。

(市長)

それでは、ただ今の大綱案の説明につきまして、ご意見、ご質問等はございませんでしょうか。私のほうから指名させていただきますので、感想でも結構ですので、皆様方からよろしくお願いいいたします。

それではまず、木村委員長、いかがでしょうか。

(木村委員長)

まず、議事録、各項目の発言等について、きちっとまとめていただきありがとうございます。

基本理念についてであります。 「学び合う 感謝と思いやりにあふれる “わ” のまち能代」 に込められている市長さんの思いとして、この “わ” には、いろいろな漢字の “わ” があてはまるのでしょ、絆という意味合いもあるのだと思います。基本理念に合うかどうかはわかりませんが、現在の社会状況というのでしょうか、子育てにあっての親の在りようとか、人間関係の希薄さ、家族の絆云々という、そういう社会現状の問題点というものを2、3行記載したら、なぜ感謝と思いやりなのか、なぜ人と人との関わりなのか、ということがより明確に見えてくるような気がいたしました。社会現状の姿を上の方に2、3行足してみたらわかりやすいものになるのではないかなと思います。基本理念は、これでよろしいのではないかなと思います。

基本目標に関しては、一般の方がこれを見てわかるだろうかという印象を受けました。

例えば「主体的で創意ある教育活動の推進」という一文ですが、すべてを網羅しようとし過ぎて、具体的な内容は何なのか、わかりづらくなっているのではないかなと思います。おそらく、議事録9ページにある教育長さんの言葉が、「主体的で創意ある教育活動の推進」という1行になっているのだと思います。「主体的」とは誰が、「創意」というのは一体どんな創意なのか、教育長さんの言葉を私なりに解釈すると「自分で気づき、自分で考えられる教育の推進」なのではないかなと思いますので、それをこの文言の下に入れたらいいのではないかなと思います。「主体的で創意ある教育活動の推進」とは何か、「自分で気がつき、自分で考えられる教育の推進」である。例えば、今「悪いことはしてはならない」という学校現場ではなく、「悪い行いをすまい」と子どもたちが自発的に自分の心に言い聞かせるような創意性、主体性を育む現場。「良い行いをしなさい」と先生がいうのではなく、「良い行いをしよう」と子どもたちが自発的に自分の心に言い聞かせるように育てる教育現場というのが「主体的で創意ある教育活動の推進」ではないかと私は思っている。目標としてはこの文言だけでもいいのかもしれないかもしれませんが、もうちょっと伝わるような補足がほしいかなと思います。それが、9ページにある教育長さんの「道徳の充実を含めた心豊かな児童生徒の育成が目標ではないか」という言葉を施策の方向性としていただいたということなのかなと思っております。

②についてであります。 「心豊かでたくましい子どもを育てる指導」もまた、教育関係者では理解できるのしょうけれども、一般の人たちには「具体的にはどういうことなのかな」ということになるのではないのでしょうか。私自身は、「心豊か」というのは、自己の確立がきちっとできて、友だちなど他への尊重がきちんとできて、それを「心豊か」というふうにとらえています。自己の確立ができて、他への尊重ができて、人と人とのつながり、和が成立するのではないかなと思っております。

それから③「基礎学力の向上を図る学習指導」ですが、これも議事録9ページの教育長さんの言葉で「基礎学力の確実な定着とその活用」の表現であろうかと思っております。今まで能代市はトップクラスの学力を維持してきましたが、教育長さんがよく「この基礎学力を確実に定着させていくことが、これから10年20年先の能代市の子どもたちの学力を本物にしていくのだ」とおっしゃっていますので、「基礎学力の確実な定着を今後図っていく」という意味合いなのかなと思っております。

④「幅広い見識、実践的指導力を培う教職員の研修」ということですが、学力を定着させるに

は教職員の環境をきちっと整えて、それから教職員の技術、教育の指導の高さを継承していくということがこれから求められていくのだらうと思います。

⑤の「安全・安心な学校教育環境の整備」、これが最も大切なことだらうと思います。これに関して、「教育に携わるすべての教員は、学校でできることを精一杯がんばっていかねばならない」という教育長さんの言葉がやはり議事録に記載されていますが、この言葉を聞いたら、本当に保護者の方々は安心するのではないかと思います。「安全・安心な学校教育環境の整備」、これは教育関係者の中ではこれでいいのですけれども、一般の人に伝えるためには、下にかっこして「教育に携わるすべての教員は、学校でできることを精一杯がんばっていかねばならない」という、基本目標にこうした決意が合うのかどうかよくわからないのですが、こうしたほうが市民の方々にはよく伝わるのかなと思いました。

あと、ちょっと端折りますが、3の「学校・家庭・地域・行政が一体となった云々」というところに、「命の教育」といいますか「命の伝承」という項目も設けてもいいのではないかと思います。

それから、基本目標4の「ふるさとの伝統文化の継承云々」というところではありますが、基本的なことですが「私にとってふるさととは」という問いかけからスタートしてもいいのではないかなと思います。すばらしい伝統文化、芸術が能代にあるというのは十分わかりますし、それが市民の共有財産だということも大きなインパクトがあります。でも、それが子どもたちにとって「私にとってふるさととは何」というその答えが出てきたとき初めて、ふるさとへの思いとか愛着が、自分のふるさとという形で受け止められると思うので、「私にとってふるさととは何」という言葉が入ってきたほうがいいのかないかなという気がします。

思いつくままにお話をさせていただきました。

(市長)

はい、ありがとうございます。ひと通り、皆さんのご意見を伺ってからと思っておりましたが、今のご意見について、事務局、教育部としてお答えしておかなければいけないことはありませんか。

(教育部次長)

いただいたご意見は、全くそのとおりであります。私どもの考えとしては、20ページの資料でご説明いたしましたように、大綱の基本目標についてはある程度漠然としたもので、具体的な個別計画については学校教育の方針や社会教育振興中期計画のほうに掲載しようと考えておりましたが、木村委員長からご意見にありましたように、もうちょっとわかりやすい言葉を基本目標の項目に加えたらいいいのかなと思っております。少し検討させていただきたいと思います。

(市長)

今の委員長のお話の中で、個別計画で反映させることができるものとできないものがありますよね。そこのところを取捨選択して、大綱の中でもうちょっとわかりやすい言葉を使って理解しやすいものにするのと、それから具体的にそれを個別計画で反映できるものはそちらで反映するという2通りで考えないと、今の委員長の意見を反映できないのではないかと思いますので、あえて教育部に考えを伺ったところですか。その辺のところはだいじょうぶですか。

(教育部次長)

一度整理させていただいた上で検討させてもらいたいと思います。

(市長)

一度これを整理していただいた上で、大綱で反映させるもの、それから具体的にもっと「じゃあ、どうするの」というところは個別計画に反映しなければいけないと思うんですよね。

「じゃあ、どうするの」というところが書けないときに、教育部としては頭の痛いところだと思うので、事務局で検討していただいて、後ほど日を改めてみんなで相談するというようにさせていただきます。

それでよろしいでしょうか。

(各委員)

はい。

(市長)

では、委員長が発言については、そういうことでお願いします。それでは西村職務代理者、お願いいたします。

(西村委員)

私は感想になります。委員長がおっしゃっていたように、よくまとめられていて、わかりやすいと思います。

大綱につきましては、これまでの学校教育方針等に肉づけをしていただいて、さらによくなったような気がしております。さらに表現もわかりやすいというか、今、委員長がおっしゃったように具体的なものに関してはまた別ですけれども、スタート時点の表現等に関してはよいものだと思っております。

話はそれですが、先週土曜日に第五小学校のPTAの研修会でお話をさせていただく機会がありました。子どもさんたちが前に座って、後ろに保護者の方々がいらしたのですが、話を聞く生徒たちの態度も立派でしたし、何より驚いたのが、6年生が感想発表のときに、私の言ったことをきちんと聞いて、それを感想としてうまくまとめて話してくれたということが、すごくうれしくて、能代市の教育というのは自分で考えて話すということがうまく根付いているんだなと思います、改めて感心してきました。最後に、保護者との話の中でも「私たちよりも立派な表現をしますね」という話が出まして、本当に再度安心しました。

ですから、この大綱についても、このままの形でいいのではないかなと思いました。

(市長)

ありがとうございます。それでは、浜野委員、お願いいたします。

(浜野委員)

私も感想になりますけれども、先回の会議の中で「感謝、思いやり、心の育み」というキーワードがあり、やはりこれらのキーワードは人間としての基本であると考えますので、ここを大きな柱として基本理念に盛り込んだことは、大いに賛成できると思います。

以前からの能代市教育委員会の重点目標などを継続して盛り込んでおり、さらに「人間性を育む教育の推進」「学校・家庭・地域・行政等が一体となった取り組み」といったことも取り上げられており、市全体として、市民が一緒になって子どもを育てていこうという気持ちが表れている大綱だと思いますので、今回のこの案に賛成したいと思います。

(市長)

ありがとうございます。中嶋委員、お願いいたします。

(中嶋委員)

私も、第1回目の総合教育会議の意見が反映されていて、とてもよくまとめられていると感じました。

先ほど委員長のお話にも、現代社会の状況を付け加えるといいのではないかというご意見がありました。今、テレビで、相田みつをさんの詩を用いて「やわらかいところをもちましよう」というようなコマーシャルが流れています。瀬戸物と瀬戸物といった固いもの同士をぶつけるとすぐ壊れてしまうので、「やわらかいところをもちましよう」ということです。現代の公共の場ではイライラの種が多くなっていますが、大綱案の基本理念「学び合う 感謝と思いやりにあふれる“わ”のまち能代」に向かって、子どもたちは「自ら学び、行動する力」を先生方の実践的な指導によって身につけ、子どもたちは瀬戸物でなく「やわらかいところをもつ」ことができるようになるのではないのでしょうか。

ちょっと余談になりますが、娘の通っている高校で今週十里強歩が行われます。常盤地区を回るので、常盤地区の父兄が足りないため、二ツ井地区の保護者もお手伝いをする事になりました。深夜、明け方までかかりますが、子どもたちのためですから夜通しの作業も楽しみだということで、大変協力的です。この基本目標にもある「学校・家庭・地域・行政等が協働で子どもたちを育てる環境づくり」、それを支える「“わ”のまち能代」、地域の大人たちは、目標2のように「子どもたちに豊かな人間性を育むために大人が心豊かに生き生きと暮らせることが大切」であり、そうした中から連携の成果がいろいろと得られるのではないのでしょうか。

私の意見は以上です。

(市長)

ありがとうございます。教育長はいかがでしょう。

(須藤教育長)

第1回目の総合教育会議の中で私たちが語った思いがキーワードとしてまとめられ、そのキーワードがすべて盛り込まれております。また、20ページに「大綱の基本的な考え方」が図示されており、私は非常にわかりやすいなと思っております。すべて今までやってきたことに基づいており、また上位計画との整合性もよく図られ、これからの能代市の子どもたちをどう育てていくか、能代市民がどう子どもたちを見ていくかという視点も入れて、まとめられていると思います。

ただ、私たちだけがわかる表現ではなく、一般市民の方にきちんとわかる表現にするということも大切なことだと思いますので、これから検討を重ねて改善できるところは改善していきたいと思っております。

(市長)

ありがとうございます。今、ひと通り、委員の皆様方からご意見を頂戴したわけですが、まだ少し言い足りない、少しお話ししたいというようなことがありましたら、どうぞご発言願います。

少し、私も発言させていただきたいと思っております。

今回、豊島区での会議に出席したときに、私が自慢してきたことが、確かに学力日本一ということは、我々能代市の教育に関わるものとして自慢の一つであるのかもしれないのですが、もう一つ、我々の自慢は、先ほど子どもの自立という話もありましたけれども、やはり子どもたちがきちっと返事をし、あいさつができる。そして学校に行くと、学校の中にはゴミ一つ落ちていない。ゴミを拾う、清掃も大変熱心にやるけれども、何よりゴミを捨てないということが徹底されていると思うんですね。

以前、相模原市の銀河連邦経済協議会の方々、商工会議所、商工会関係の皆さんが来能されて、

突然「能代の学校を見たい。小中一貫校を見たい」ということで、常盤小・中学校に行ったんです。その日の夜に懇談したときに、「ものすごくびっくりしたのが、突然学校に行ったのに、子どもたちが私たちに『お疲れ様です』とか『こんにちは』とかあいさつしてくれる、それがすごい。それから、この会場に来るために街なかに来ると、また子どもたちがきっちりあいさつしてくれる。いやあ、すごいですね。そして、あの常盤小・中学校でもっとびっくりしたのが、ゴミ一つ落ちていない。突然行ったのに、すごくきれいだった」と言うんです。私はうれしくなって、「能代市の小中学校19校、どこに突然行っても、きれいにしていますよ。床はピカピカ。ゴミ一つ落ちていません。常盤だけではなく、どこでもそうなんです。当たり前のことなんです」と自慢したんですよ。

だから、一つの教育として、能代ではそういうことが成り立っているんだということ。まず自分がしっかりとしなければならぬ、当たり前のことを当たり前に行き通すことができる。それがあいさつや返事、掃除だったり、自分の身の回りをしっかり片付けるということだったり、そういうことをきちんとできるから、授業にも集中できる。自分がしなければならぬことをしっかりとやるから、予習復習もできる。

「早寝、早起き、朝ごはん。予習復習もしっかりやるから、秋田県は学力日本一だ」と、よく言われますが、「それだけではないんですよ。その前に、人としてやるべきこと、当たり前のことを当たり前に行き通す。能代の子どもたちにとっては、それが特別なことでもなんでもなくて、普通のことなんです。それを普通にやれることがすごいんですよ」と、私はよく言うんですよ。

今、大綱に書くか、個別計画に書くかは別にしても、子どもたちがそういうことをできるということはとても大きい財産だと思うのですが、これは学校教育がよくできているからそれができるのか、もしくは社会教育、家庭教育がしっかりしているからそれができるのか。学校教育のほうからそういう心の部分だとか、生活指導の部分のアプローチがあるのかもしれませんが、逆に子どもたちがしっかり当たり前のことを当たり前に行き通すから、学力へのアプローチということがあるのかもしれませんが、これは両方だろうと思うんです。そういう子どもたちの基礎的な部分、学力ではないところからの学力へのアプローチといった視点が必要なのではないか、と思うんですよ。

能代の子どもたちについて外に発信するときに、そういう見方というのが大切だと思います。例えば、私たちのところに全県大会などに出場するときに、子どもたちがあいさつに来てくれるのですが、そこで監督や先生から突然「市長さんに自分の意見を言いなさい」と言われても、みんなきちんとあいさつができて、「今度の大会ではこうしたい」と目標などをきちっと言えるのを見ると、本当にすばらしいと思うんですよ。だから、大綱に書くかどうかは別にしても、我々が能代の教育ということを考えるときに、そのアプローチの視点を持っていないと、片手落ちになるような気がします。そういった視点を、どこかの片隅に置いておく必要があるのではないかと、これを読んで感じました。

ほかにご意見等ございませんでしょうか。

ないようであれば、今いただいた皆様方のご意見を大綱に反映させるもの、反映させながら文言が変わっていくもの、それから個別計画の中でそれを具体化するものなどもあろうかと思えます。「おおむね大綱についてはよくできている」という皆様方の感想だったと思いますが、その中で市民の皆様や学校・教育関係者の皆様に理解しやすいような表記の仕方があれば、また次回の会議で協議していただきまして、教育委員の皆様方からご意見を頂戴したいと思います。

先ほどのあいさつでもお話ししましたが、今後、市議会の文教民生委員会のほうでご審議いただくとともに、市民の皆様方からもパブリックコメントを通じてご意見を寄せていただこうと思っております。そうした意見も反映させながら、また次回の総合教育会議の中で議論させていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

【その他】**(市長)**

それでは「その他」として、教育委員の皆様から何かご質問やご意見等がありましたら、ご発言願います。事務局はどうですか。

(教育部次長)

特にありません。

(市長)

特にないようでしたら、会議を閉めさせていただきます。

次回の会議は、10月下旬の開催としたいと思っております。その時に、先ほどのご意見を反映した素案をお示しした上で、大綱を策定したいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

本日は、大変お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。重ねて御礼申し上げます。

それでは、事務局からお願いいたします。

【閉会】 (教育総務課参事)

第3回目の総合教育会議については、改めて、近くになりましたら、皆様に日程等をお知らせいたしますので、よろしくお願いいたします。

これをもちまして、平成27年度第2回能代市総合教育会議を閉会いたします。

ありがとうございました。